

日米両政府は2022〜26年度の5年間の米軍「思いやり予算」(在日米軍駐留経費の日本側負担)の内容について合意しました。従来の基地の施設整備費を増やすのに加え、「訓練資機材調達費」を新設します。日本政府は今回の合意に基づき負担を「日米同盟を二層強化する基盤を構築する」とし、通称を「同盟強化予算」にするとしています。しかし、日米地位協定上、米側が負担すべき経費を日本側が肩代わりするというのが「思いやり予算」の本質は変わりません。対米従属をさらに「強靱化」する重大な合意です。

米から一層の増額要求も

日米両政府が21日に結んだ合意では、5年間の負担総額を1兆5

# 主張

## 思いやり予算合意

51億円、年平均で約2110億円としました。これを受けて岸田文雄政権が24日に決定した22年度当初予算案には、「思いやり予算」として21年度比39億円増の2056億円を計上しました。

従来の負担である日本人従業員

設・区域の抗たん性強化に資する施設整備を重点的に推進していく(林外相)とし、米軍機の機体(シエルター)などを整備します。

では、アラスカへの米軍機の訓練移転費にも負担対象を広げます。肩を並べて戦争するため

このうち、新たな負担となる「訓練資機材調達費」は10億円を

の労務費や基地で使う光熱水費に

「抗たん性強化」とは、敵の攻撃に耐えて基地の機能を維持する能力を高めることです。「台湾海峡などの有事の際には、前線となる在日米軍基地は急

岸信夫防衛相は今回の合意について、中国や北朝鮮の軍事力強化を挙げ、「厳しい安全保障環境に(日米が)肩を並べて立ち向かっていく決意を示すことができた」と述べています。まさに自衛隊と米軍が「肩を並べて」戦争するた

# 対米従属の「強靱化」許せない

ある(1)毎日「22年度予算案の「思いやり予算」は、21年度比50億円増の267億円でなりました。合意では5年間で総額1641億円とされ、転費11億円となっています。合意

盛り込みました。政府は「在日米軍の訓練のみならず、自衛隊と米軍との相互運用性を高める共同訓練にも資するような資機材を調達する(林芳正外相)としていま

5年間で総額200億円とされています。在日米軍基地への攻撃を現実的な危険として想定したもので、

「抗たん性強化」とは、敵の攻撃に耐えて基地の機能を維持する能力を高めることです。「台湾海峡などの有事の際には、前線となる在日米軍基地は急

米国の同盟国の中でも異常突出している「思いやり予算」を増やす道理は、どこにもありません。岸田政権は、合意に基づき特別協定を来年早々に締結し、承認案を通常国会に提出しようとしている。その成立を許さない運動と世論を広げることが必要です。

の最新鋭シミュレーターの導入費などがかかります。しかし、「所有

22年度予算案の基地の施設整備費は、21年度比50億円増の267億円でなりました。合意では5年間で総額1641億円とされ、

「抗たん性強化」とは、敵の攻撃に耐えて基地の機能を維持する能力を高めることです。「台湾海峡などの有事の際には、前線となる在日米軍基地は急

米国の同盟国の中でも異常突出している「思いやり予算」を増やす道理は、どこにもありません。岸田政権は、合意に基づき特別協定を来年早々に締結し、承認案を通常国会に提出しようとしている。その成立を許さない運動と世論を広げることが必要です。